

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和4年度

1 基本情報

公の施設名	相模原麻溝公園動物広場
指定管理者名	公益財団法人 ハーモニイセンター
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市都市公園条例
施設の設置目的	公共の福祉の増進に資する。(都市公園法第1条) 市民の憩いの場及び市街地のみどりの創出を図る。
施設概要	◆相模原麻溝公園内ふれあい動物広場：動物舎12部屋490.55㎡、救護舎3部屋132.00㎡、ポニー舎1部屋340.52㎡、鹿舎1部屋90.00㎡、アライグマ・リスザル舎4部屋65.14㎡、牛・豚舎4部屋88.00㎡ 展示コーナー：常時30種以上の展示、ふれあい動物広場コーナー：常時5種以上配置、ポニー乗馬場：常時3頭以上配置
施設所管課	環境経済局 公園課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ポニー乗馬人数(人)	86,619	82,811	68,988	38,233	52,861	62,588	
ポニー乗馬収入(円)	8,558,900	8,188,300	6,814,900	4,607,930	6,805,370	8,049,860	

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
B	目標値についてはコロナによる影響を考慮し、従来値より3割目標値を下げたが達成度は99.3%とわずかに未達であった。前年からも10,000人ほど増加しており、一定の評価はできる。しかし、本来の目標値である90,000人に対しては達成度69.5%となり、コロナによる利用制限が令和3年より緩和されていたこともふまえると利用者数については厳しい数字となっている。利用者回復に向けた方策が今後の課題となる。

指標	
指標名(単位)	ポニー乗馬人数(人)
指標式と指標の説明	指標に対する過去の実績値から目標値を設定し、それに対する達成度を算出する。 達成度=実績値/目標値

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(人)	96,853	96,853	82,500	75,000	63,000	63,000	
実績値(人)	86,619	82,811	68,988	38,233	52,861	62,588	
達成度(%)	89.4%	85.5%	83.6%	51.0%	83.9%	99.3%	

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	事業実施状況については達成度131%の「S評価」となる。実施事業の多くで参加者数が目標値を上回るか、それに近い数値となっており、評価できる。また、こどもポニーボランティアの育成などにおいては事業者の経験や指導力を大いに発揮し、質の高い技術向上プログラムや指導が行われており、今後も継続いただきたい。また、動物広場の事業メインであるポニー事業全般についても、馴致が徹底されたポニーの配備がなされており、企業努力の賜物である。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
ポニー乗馬	通年(休園日除く)	ポニーの引き馬 2歳～小学校6年生	○
小動物とのふれあい	通年(休園日除く)	モルモットなどの抱っこやふれあい	○
動物展示	通年(休園日除く)	展示	◎
ポニー教室	年6回(各回5日間)	乗馬・馬小屋掃除・手入れ等 市内在住小中学生	◎
障がいのある児童のためのポニー乗馬	月6回(毎月第2・3・4土曜日の午前・午後)	乗馬・馬小屋掃除・手入れ等 市内在住4歳～中学生(障がい児)	◎
動物クラブ	6月～3月(休園日除く)	飼育体験 小学校3年生～中学生	◎
動物フェスティバル	4月・10月	日常のプログラムの他各種ゲーム、アトラクションを場内に設置	◎
団体利用	通年(休園日除く)	市内の児童施設、障害施設、各種団体の利用	◎
周辺施設との連携	通年(休園日除く)	麻溝公園、県立相模原公園、健康文化センター、総合体育館等との相互協力	○
市民ボランティアの育成	通年(休園日除く)	市内の高校生や成人を対象としたボランティア育成	◎

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
子どもポニーボランティア	通年(休園日除く)	ポニー教室のお手伝いなど ポニー教室参加経験者(小学1年生～中学3年生)	◎
出張動物教室	通年(広場業務に支障がないように)	ポニー・小動物を施設に派遣 市内及び近隣市町の公共施設が対象	◎
さがみはらっこポニーキャンプ	年2～3回	宿泊ポニーキャンプ 市内在住の1年生～中学3年生	○
親子引き馬	通年	保護者と2歳から小学3年生	◎
動物の餌の販売	通年(休園日除く)	小動物・ミニチュアホースのエサあげなど	◎
大きいポニーへの餌あげ	毎月3～4回	馬の餌あげ	◎
特別展示プログラム	夏休み期間	水生生物展示	△
季節プログラム	年6～9回	季節の行事に合わせた乗馬プログラム	◎
健康づくり乗馬教室	通年	青年から高齢者、要介護者等を対象とした乗馬	◎
羊毛クラフトワークショップ	2回実施	羊の毛を使った工作プログラム	◎

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	令和3年度実施の選考委員会の意見を踏まえ、目標値が当初より100%となっていたものを90%に変更した。その結果、達成度111%の「S評価」となった。例年高い水準で満足度の実績値が推移していたが、目標値が高く評価がB評価となることが続いていたが今回は高い実績値に対して適正な評価となった。アンケートの意見も全世代からまんべんなく肯定的なものも多く、スタッフや管理者の努力が伺えるもので、引き続きニーズに対応した施設運営をお願いしたい。

利用者満足度調査

調査手法/サンプル数	職員が直接アンケートを依頼、アンケートコーナーを設置/120部
目標値の基準	4段階評価のうち「とても思う」「思う」合わせて90%

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（%）	100	100	100	100	100	90	
実績値（%）	94	94	98	99	99	100	
達成度（%）	94.0%	94.0%	98.0%	99.0%	99.0%	111.1%	

その他の取組

取組事項	時期	取組内容
(なし)		

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
C	施設の収支としては本体事業収支、全体収支ともに赤字であり、団体の経営状況については若干の懸念があることからC評価とする。

施設の収支概要

※直近3年間について記載

(千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収入（a）	104,098	100,005	93,504
指定管理料	85,883	84,834	84,834
利用料金収入	4,608	6,805	8,049
その他の収入	13,606	8,366	620
支出（b）	94,238	88,371	95,533
人件費	46,510	51,291	56,062
本社管理経費	15,384	9,861	10,409
その他の支出	32,344	27,219	29,062
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)	9,859	11,634	-2,029
自主事業収入（d）	6,537	10,476	11,932
自主事業支出（e）	12,104	12,262	13,252
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)	-5,567	-1,786	-1,320
全体収支 【(c)+(f)】	4,292	9,848	-3,349
備考			

団体の財務状況

団体本体の経営状況について若干の懸念がある。

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング・現地確認により検査を実施	
実施時期	令和5年2月	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	不適正	情報公開規程については現在作成中となっており、令和4年度については不適正となるが、令和5年度については改善見込み。
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	各種イベントの情報とは別に、各動物たちの様子を定期的に記載している。

9 指定管理者の自己評価

新型コロナウイルス感染症の影響によるプログラム中止の期間がなく、親子乗馬や動物フェスティバルといった人気プログラムを再開することができた。一部、人数制限が残った状態であったため、今後の回復が望める。また、満足度調査において、評価する意見が100%となり、制限が残る中でも満足してもらえる運営ができたと考えている。

人件費や飼料をはじめとする動物飼育費が上昇したり、プログラム実施に感染症対策として人出を増やすなどしたこともあり、収支は赤字となってしまった。人件費や動物飼育費の上昇は今後も続くと考えられるが、感染症対策のあり方については見直しを進め、収支改善に努めたい。

10 所管課意見

ポニー乗馬については達成率約99%となり一定の評価はできるが、令和5年度から目標値が90,000人と本来の目標値に戻ると考えると、利用者増加の方策や手法に取り組む必要がある。ポニー乗馬に限らず施設の魅力を対外的に発信することに今後は注力いただきたい。

一方、こどもポニーボランティアの育成などにおいては事業者の指導力や団体の培ってきた経験に基づく体験教育・社会教育の知見を大いに発揮し、質の高いプログラムや指導が行われ、参加児童の成長に大きく寄与しており、今後も継続いただきたい。ポニー事業全般についても、長年のポニーを用いたプログラム運営の経験や馴致が徹底されたポニーの配備により、利用者の安全が高い水準で確保されている点は、事業者の努力の賜物である。

利用者満足度の高さからも、動物広場スタッフの施設運営に対する力量や質の高さが伺え、スタッフ努力の賜物と考えられる。

物価高騰等の影響により、飼育費の高騰等は避けられないが、魅力的な施設であることをより対外的にPRしていく事で来園者の増加を図り、赤字からの脱却を目指していただきたい。

また、動物広場において「登校にためらいがちな児童の受け入れ事業」を行いました。これは小、中学生のいわゆる不登校で学校に行くことが難しく、支援が必要となっている子どもを対象に、動物広場での飼育体験を通じ社会参加や居場所づくりのきっかけを図るものです。成果として、参加児童が役割や責任を果たすため積極的に作業に取り組んだり、最初は目を見て挨拶ができない子供もいたが、全3回で行われた事業実施後には目をみて挨拶や話ができるようになるなど成長が伺えたといったことがありました。事業の有益性が確認でき、令和5年度以降も公園の子育て支援施策として継続していく事からも、取り組みが高く評価でき、今後も継続的な取り組みに期待します。

11 選考委員会意見

- ・自主事業収支が3年続けて赤字なので、取り組みや手法の見直しを行い改善を図ってほしい。
- ・動物広場においては経営の効率化や利益追求だけではない社会的教育施設の一面もあるという観点から施設の在り方を見ることも必要である。
- ・事業収支の黒字化も社会的教育施設の一面もあるという観点からの施設の在り方も両方大事な考え方であると思われる。課題に対しては動物広場に来ていない、来たことがない人への情報の発信力が足りていないと思うので方策を考えてほしい。
- ・情報発信について、SNS等の発信も重要だが、高齢者など幅広い層への対応を考えてほしい。また、全体評価がBというのは少し寂しいので評価が伸ばせるよう取り組んでいただきたい。

総合評価（自動判定）

B

(55/100)

